

みんなが主役の「福祉のまちづくり」に、

あなたもエントリーしませんか？

基本目標の達成にむけて、あなたも自身で達成したい目標を決めて取り組み、一緒に山科のまちの福祉をより良くしませんか？

小さな事でも構わないです。みなさんそれぞれの取組が集まると大きな力になります。「新たなつながり」や「つながりの広がり・深まり」が楽しさになります。一緒に実感しましょう。



個人でも、グループでも、事業者・学校等でも可！

エントリーしていただいた皆様と、目標達成のための情報発信・情報提供を行ったり、悩みや苦勞、工夫やアイデア等を共有できる場をつくり、発表の機会をつかって一緒に喜べたり・・・みんなで、楽しく挑戦したいと考えています。

ただし、営利活動・布教活動・政治活動・公の秩序を乱す恐れにつながるもの等はご遠慮ください。福祉活動として懸念要素があると判断した場合はこのエントリーをお断りすることがあります。主旨をご理解のうえ、ご了承願います。

みんなが主役の「福祉のまちづくり」に、エントリーします。

① 私(たち)の目標	③ 窓口となる人
タイトル(※20字程度以内) 記入例: 毎日、挨拶 支援会活動の拠点づくり	ふりがな
具体的な内容 私(たち)は、 記入例: 町内で顔の見える関係づくり 高齢者のちょっとした困り事へのお手伝いをする のために、 記入例: 毎日、町内の人と出会ったら笑顔でこちらから挨拶 受付窓口や居場所となる拠点づくり をすることをめざします。	お名前
	住所
	〒
	電話番号
	FAX番号
② 私(たち)の名前(またはグループ名・名称等)	メールアドレス

エントリー方法 上記のエントリー用紙に記入して山科区社協にFAXまたは持参、もしくは必要事項についてメール(件名に“みんなが主役の「福祉のまちづくり」エントリー”と記載)または電話でご連絡ください。

エントリー期間 ~令和6(2024)年9月まで随時

(注)必要項目①・②は、広く公開させていただきます。必要項目③は、山科区社協が連絡を取るために使用し、公開はいたしません。あらかじめご了承ください。

目標が決まったら、エントリーしてみんなで一緒に取組をすすめませんか！

詳しい情報は、山科区社会福祉協議会のホームページをご覧ください。

やましくしやきよう 検索



エントリーしてやあ！
待ってるぞ！



ふれあいネットワーク
社会福祉法人 京都市山科区社会福祉協議会
〒607-8344 京都市山科区西野大手先町2-1
TEL. 075-593-1294 FAX. 075-594-0294
http://www.mediawars.ne.jp/fukusi08/
メール fukusi08@mediawars.ne.jp



保存版

あなたの番です！

みんなが主役の「福祉のまちづくり」

さあ、やってみよう！

1 あなたからつながろう、未来につなげよう。

みんなが、地域に役割や生きがいを持って福祉のまちづくりに参加できる取組を進め、災害時の助け合いにも活かせる強いつながりづくりに努めます

2 ひとりじゃない。みんなで支えよう。

さまざまな個人・団体・関係機関などが地域でつながり、住民の暮らしの充実や安心を実感できる仕組みづくりを進めます



あなたの「思い」を形にして、もっと“やさしいまち”にしませんか？

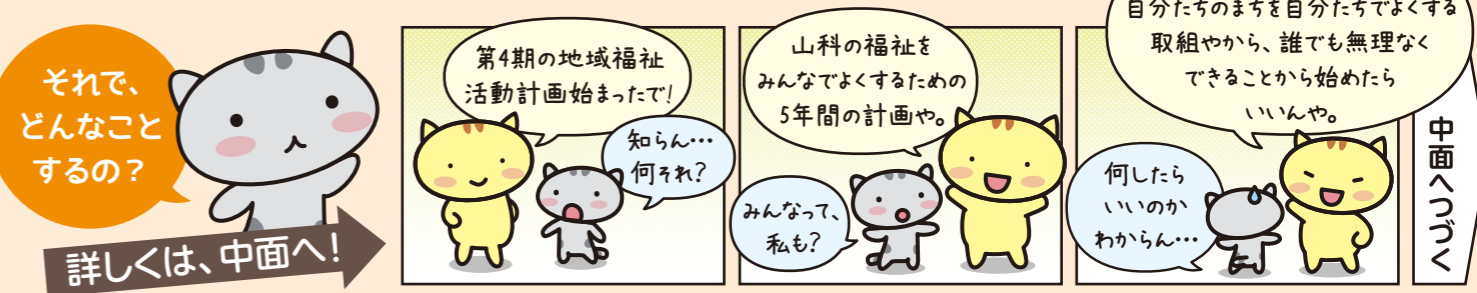
山科区民からの声・アイデア

「今、私たちが山科の地域福祉において取り組むべきことはこれだと思います！」

[令和元年度山科区の地域福祉を考える集いアンケート回答より抜粋]

地域住民同士のつながりづくり。(20歳代)/地域のできる範囲での声かけ・見守り。(30歳代)/教育とのつながり、子どもとのつながりを持ってたらと思います。(30歳代)/一言も話をしなくても参加できるものづくり教室なんかがあれば、話をしたくない人でも参加してもらえて、いずれ得意になれば、教えてくれる人に代わってくれるかも。(30歳代)/地域の人に身近に感じてもらう地域貢献事業(40歳代)/分野別でなく皆がつながりあって何かができたらよいと思います。(40歳代)/一人一人が「新しい事にチャレンジ」→「そこから何かを知る・学ぶ」ということかも。(40歳代)/赤ちゃんウェルカム。若いお母さんのサポート支援強化。(40歳代)/単身高齢者へ「長生きしてくれてありがとう」プレゼント。(40歳代)/横の連携だと思います。(40歳代)/地域を支える様々な機関の取組を相互に知る、理解することが大切だと思います。(40歳代)/地域住民として近隣への声かけ活動”が大切。これなら誰にでも簡単にできる。区民全体で、「声かけのできる街、山科」として取り組んではどうでしょうか。(50歳代)/見守る目をたくさん作る。自宅以外の居場所を作る。(50歳代)/健康者障害者全ての人が当たり前で生活できる山科でありたい。(50歳代)/小さな出会いを大切に山科区内に知り合いを増やす。生まれた時から共存が当たり前という教育も必要。(50歳代)/キーワードは「おせっかい！」積極的なボランティア精神。(50歳代)/困った時は「必ず助けてくれる機関や団体や個人がいる。」ことを、全ての人に知ってもらうこと。(50歳代)/高齢者が増える中、元気で生き生き楽しく過ごせる居場所づくり、人づくりだと思います。(50歳代)/若者男女問わず参加しやすい行事があればいい。(60歳代)/ひとりぼっちの人もいざという時には助けてもらえるところがあるということを知ってもらいたい。(60歳代)/向こう三軒両隣。声をかけることで人を知り得ると思いますので声掛けの機会を作っていかなければと思います。(60歳代)/一人で困った時にまわりにつながりできるようにすべき。(60歳代)/すぐには解決できなくてもつながりが持てる関係を築いていけると良いと思いました。(60歳代)/防災関係で困難者等について集めた情報をいかに共有するかが問題だと思います。守秘義務・プライバシーの問題もありますが考慮してほしい。(60歳代)/人材育成が必要でないか。若い人から高齢者までもっと人材がいると思う。(70歳代)/友達との付き合いもなく町内会にも参加しないということで孤立していくと思う。自分のできる事をする事で人と関われるのではないかと思います。(70歳代)/元気な高齢者がたくさんいて運動や趣味に参加されています。そんな中には、ちょっとだけでも人のために動けたらと思っている人の力を借りるのにはどうしたらいいのかいつも思っています。(70歳代)/各種団体の横のつながりの見直しをすること。(80歳代)/外からは見えにくい「困っている人」をどうやって見つけてあげられるかを考えています。町内会や老人会等の各種団体ができるだけ関わっていくことで横のつながりができるので多くの人に呼び掛けたい。(80歳代)

第4期山科区地域福祉活動計画(令和2年度～令和6年度)始まりました！



「あなたがしたいこと」、「あなたにできそうなこと」は、何ですか？ あなたの力が必要です。

ひとりで頑張り過ぎなくてもいいんです。地域には、「お互い様」で助け合えばいいこともあります。

みんなが主役の「福祉のまちづくり」

みんなが主役の「福祉のまちづくり」

1. あなたからつながろう、未来につなげよう。

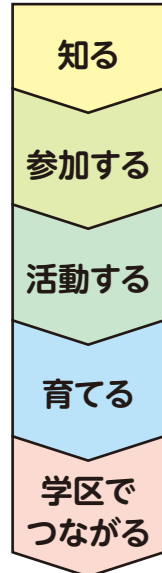
2. ひとりじゃない。みんなで支えよう。

基本
目標1

みんなが、地域に役割や生きがいを持って福祉のまちづくりに参加できる取組を進め、災害時の助け合いにも活かせる強いつながりづくりに努めます。

基本
目標2

さまざまな個人・団体・関係機関などが地域でつながり、住民の暮らしの充実や安心を実感できる仕組みづくりを進めます。



- 1 地域を支えている福祉活動を見て・知って・関わる取組を進めます。
- 2 できる人ができる時にできる事で、お互いに支え合う活動を多様な形で広げます。
- 3 子どもたちに「世代を超えて人とつながり支え合うことの大切さ」を伝えるために、地域や福祉に関わる機会を増やす取組を進めます。
- 4 学区ごとに設定された重点目標の達成に向けて、学区に暮らすみんなの力で福祉のまちづくりを進めます。

みんなが、できること。

みんなが、学区社協・学区民協・学区自治連等地域団体・障がい等各種団体等・ボランティアグループ等と一緒にできる事。

さらに、相談機関・専門機関・社会福祉施設・まちづくり・市民団体・企業・商店・協同組合・学校・行政等と一緒にできる事。

災害時に
地域力の
発揮へ

①～④の取組が進めば、日頃から地域でのつながりづくりが進み、災害時の不測の事態にも、地域で団結し、思いやりと支え合い、それぞれの強みを生かした協働・連携で、最善を尽くす体制が整えやすくなります。



大きな災害が発生した直後など一刻を争うときは、行政による支援が間に合わないことも想定されます。過去の大きな災害では、被災した方のほとんどが隣近所や地域の方に助けられています。災害時の支援は、最も身近なつながりである町内会・学区などを中心とした地域の支え合いが基本となります。

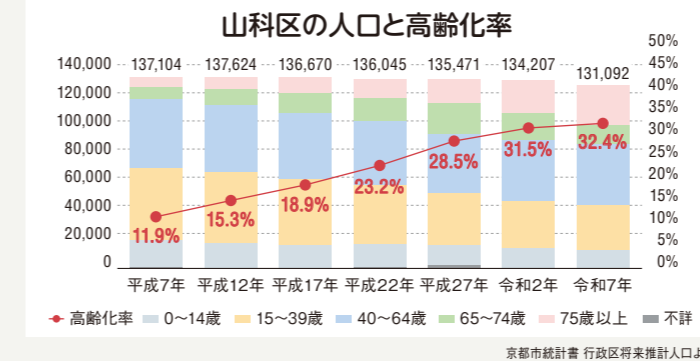
山科区のごと知ってほしい！ PART 1

山科区には地域の人が気軽に参加できる「通いの場」がたくさんあります。運営者は個人、有志のグループ、町内会、地縁団体、福祉施設、病院等さまざまです。また、会場提供や専門性の発揮による協力等で地域の福祉活動に貢献している福祉施設、事業所、商店、企業も増えています。住民の力だけでは難しいところは、さまざまな立場の人の協力も得ながら、山科区の福祉活動をより良くしていきたいと考えています。



山科区のごと知ってほしい！ PART 2

山科区の人口はゆるやかに減少、子どもの人口も減少の見通しです。一方で、高齢者人口は増加、今後は特に後期高齢者(75歳以上)人口が増える見通しです。今から、区内であらゆる世代で互いに助け合える関係を整えておくことが必要と考えています。



専門職が地域と共に住み慣れた場所で認知症を支える取組を考えています。

関係者や地域が子どもたちを孤立させない取組を考えています。

障がい者の暮らしの問題を、地域と一緒に考える取組が始まったところもあります。

1 知る・参加する・活動する・育てる・学区でつながるって、どんなことなの？

たとえば、「参加する」
地域の行事や防災訓練に参加して、身近に顔見知りの人を増やすことでつながりが広がるね。
できそうかも!

たとえば、「活動する」
居場所・サロン・子ども食堂など興味のある活動で、少しお手伝い。違う世代の人ともつながれる。
楽しみながら取り組めることを見つけたらオススメや!
無理のない範囲でいいやね

2 みんなで支えるって、どうすればいいの？

困っていても知らない人に気やすく「助けて!」とは言いきいやろ? だから、いざという時でも頼めるようなつながりづくりが大切!
お互い様の関係やね!

つながぎ
自分だけでは解決できない時は、誰かと一緒に考えたり、地域の役員さんや相談窓口につないだり、
支える
日頃から、ゆるく見守り合い、助け合える関係を広げていくことが、山科を「やさしいまち」にしていくことになるやで。

あなたのやりたいこと、できそうなことは、見つかりましたか?
裏面へつづく
見つけたあ!